板橋区立赤塚第二中学校　学校だより　＜第７号＞

芙　蓉

教育目標「立志・鍛錬・協調」

令和５年１１月２７日
校長　木村　知広
〒175-0094
板橋区成増 3-18-1
TEL (3939)0247

より良い自分･集団を目指して

校長　木村　知広

感動的な合唱コンクールから一ヶ月。この一ヶ月間は、富士見高原移動教室、９年生三者面談、８・９年生が合唱コンクールに参加できなかった７年生への全体合唱を披露した全校朝礼、期末考査、平和の集いと、あっという間の一ヶ月でした。皆さんが、それぞれの場面で一所懸命頑張る姿を見ることができ、校長として、とても嬉しく思いましたし、みんなで協力して頑張ることができる皆さんを誇りに思います。本当にありがとうございます。

今年も残すは一ヶ月となりましたので、この１年の自分自身を振り返ることが大切になってきます。日々の生活・学習面での行動を振り返るとともに、下記の「大切にしてほしいこと」を意識することができたかどうかについても、振り返ってください。そして、振り返ったことを明日からの自分に活かし、さらにより良い自分、より良い集団を創りあげて欲しいと願っています。

令和５年度が始まるにあたり、全校生徒の皆さんに大切にしてほしいこと（学校だより第１号より）

①理想の自分の姿をしっかり見据えた上で、その実現に向けて自ら学び・考え・判断し・行動すること
②理想とする自分の姿に近づけたかどうかを常に振り返り、自分の弱さを克服しながら、ねばり強く挑戦しつづけること
③一人一人の個性などの違いを認める心と温かい思いやりの心をもって人と接すること
④自分を支えてくれるすべての人々に感謝の心をもって、日々生活すること

そこで、本日は、より良い自分・集団を創るために、小学校１年生のときにも学習した「はしの上のおおかみ」を読んで考えてみたいと思います。まずは、読んでみてください。

はしの　上の　おおかみ

山の　中の　谷川の　上に、一本ばしが　ありました。
長いけれど、　せまい　はしです。一人しか　わたれません。
ある　朝の　ことでした。
うさぎが　はしの　まん中まで　来ました。
けれど、そこで　びっくりして、足を　止めました。
むこうから、おおかみが　わたって　きたのです。
「こら、こら。」
と、おおかみは　うさぎを　にらみつけました。
「おれが　わたって　きたのに、気が　つかなかったのか。
　ぼんやり　うさぎめ、もどれ　もどれ。」
　おおかみに　どなられて、うさぎは、もどって　いきました。
「えへん、えへん。」
　おおかみは　大とくいで、いばって　一本ばしを　わたりました。
　それからと　いう　もの、おおかみは　この　いじわるが、とてもおもしろくなりました。毎日、用も　ないのに、はしの　上で　まって　いました。
　そして、きつねが　来ても、たぬきが　来ても、
「こら　こら、もどれ、もどれ。」
　みんなを　もとへ、おいかえしました。

　すると、ある　日の　夕方でした。おおかみは、
はしの　まん中で、ばったり　だれかに　ぶつかりました。
「こら、こら……。」
と、言いかけて、おおかみは、びっくりしました。
目の　前に、大きな　くまが　のっそりと、立って　いたからです。

おおかみは、あわてて　おじぎを　しました。
「これは　これは、くまさんでしたか。わたしが　もどります。」
　すると、くまは　手を　ふって　言いました。
「いや　いや、おおかみくん、それには　およばないよ。
　ほら、こう　すれば　いいのさ。」
　くまは、おおかみを、かるがると　だき上げて
どっこいしょと、後ろへ　そっと、おろして　やりました。
　おおかみは、はしの　上に　立って　いました。
くまの　後ろすがたを　見ながら、いつまでも……。

　つぎの　日です。
　一本ばしの　まん中で、おおかみは
うさぎに　出会いました。
「あれ、いけない。」
　うさぎは　あわてて、引きかえそうと　しました。
けれど、おおかみは　声も　やさしく　よび止めました。
「いや　いや、うさぎくん、それには　およばないよ。
　ほら、こう　すれば　いいのさ。」
　くまの　まねです。おおかみは　うさぎを　だき上げて、
どっこいしょと、後ろへ　そっと、おろして　やりました。
「えへん、へん。」
　いい　気もちです。ふしぎな　ことに、
前より　ずっと　いい　気もちです。
「これに　かぎるぞ。」
　おおかみは、気もちが　晴れ晴れと　しました。

『わたしたちの道徳　小学校１・２年』文部科学省

皆さんは、一読してどのような感想をもちましたか。ぜひ、『なぜ、おおかみは変わったのだろうか。』『おおかみが、「前よりずっといい気もち」になったのはどうしてか。』などを少し考えてみて、感想とともに、友人や先生、ご家族と意見交換をしてみてください。きっと、さらにより良い自分・集団を創るヒントがさらに見つかるはずです。そして、感じたこと、考えたことを今後に活かしてください。

皆さんの頑張りを期待しています。

学校行事

本校ホームページの赤二中日記では、学校行事等の様子を公開しています。下の QR コードもしくは URL（ https://www.ita.ed.jp/swas/index.php?id=1320142&frame=weblog)からご確認ください。

合唱コンクール

富士見高原移動教室

平和のつどい

赤二中日記

生徒の活躍

第 76 回板橋区民体育大会（陸上競技）

中学男子　４×１００ｍＲ　第２位
中学男子　１年　　走幅跳　第３位
中学男子 1･2 年１５００ｍ　第２位
中学女子　２年　１００ｍ　第３位

平和の集い

平和の集いとして、板橋区主催の広島・長崎平和の旅に参加した８年生が、被爆地を訪れて学んだことや感じたことを発表する全校集会を行っています。（赤二中日記参照）発表者は、とてもわかりやすいスライドを使いながら発表し、聴いている生徒も熱心に耳を傾け、平和とは何かについて考える良い機会となりました。【感想文を掲載します。】**※長崎の旅は台風で訪問できず代替行事に参加しました。**

一歩の勇気　　８年

１９４５年８月６日午前８時１５分に原爆は広島へ投下されました。今まで広島で過ごしていた一人ひとりの日常がなんの前触れもなく、一瞬にして奪われてしまった決して忘れてはいけない出来事です。しかし、今現在忘れてはいけない出来事でもあまり詳細を知らない人が多いと考えられます。私も実際原爆に関する本に出会って興味を持って読まなければ原爆についての知識などは学校の授業で習うだけでほとんどなかったと思います。その知識が少しでも養われたからといっても、見えないような背景はその他にも山ほどあります。もっと詳しいことを知りたいと思い広島平和の旅に参加しました。

広島に着いたばかりのとき、私はここに原爆が落ちたか疑ってしまうほどの綺麗な町並みに衝撃を受けました。そしてその地に足を踏み入れ歩いているときも今歩いている場所一面が焼け野原になっていたとは考え難く、とても不思議な気持ちでした。

ヒロシマ青少年平和の集いでは、原爆の概要と笠岡貞江さん（被爆当時１２歳）から当時の原爆の裏で起こっていた詳しい背景をお聞きしました。笠岡さんの話で、原爆が起きて７７年も経っている今でも鮮明に当時のことを覚えていて伝えられることに驚きました。覚えているということはそれほど心に刻み込まれたのだとわかりました。そこから本当に原爆は恐ろしく、被爆者の体と心に７７年経った今でも残っている出来事だと強く実感させられました。被爆体験講和を聞いていると、稀にどこかの言葉を反復させたりして協調しているときがありました。私はその中でも「我慢」という言葉に心が動きました。自分がしたくないようなことを我慢して、我慢して、我慢して…を戦時中の当時はずっと繰り返していたと思うと私だったら耐えられる気がしません。笠岡さんは兵隊さんなどの自分よりもっと我慢して、苦労している人を考えたら我慢できたと仰っていました。何より兵隊“さん”と呼んでおり、敬意が心の奥底に今でも残っていると思うと胸の奥が熱くなりました。

そして、笠岡さんは最後に「みんなに世界の平和がかかっている。平和とは、失わないと築けないもの。」と仰っていて、戦時中にみんなが支え合って復興を目指していたように現代でも支え合っていくことが大事といわれているような気がして強く印象に残りました。

このヒロシマ平和の旅で学んだことを、知っただけでは終わらせずに、みんなに伝えることはもちろん、率先垂範してまずは自分から世界を平和にできる一歩を踏み出せるよう努力します。

言葉と行動で平和をつなぐ　　８年

今回の平和の旅では、たくさんの貴重な経験をすることができました。特に印象に残っていることを二つ紹介します。

【語り部さんのお話】

平和祈念資料館では語り部さんのお話を聞きました。語り部さんの吉田勇さんは実際にソ連軍の潜水艦に襲われて被害に遭われた方です。戦争中、吉田さんは小学四年生。吉田さんが避難するために乗っていた大型船を含む計３隻が襲われました。３隻のうち唯一残った第二新興丸に乗っていた吉田さんは幸いにも助かりましたが残りの２隻は海に沈没してしまいました。また、小学校一年生の頃から軍事練習を開始されたとおっしゃっていました。私は実際に戦争を体験されている方の貴重なお話を聞き、戦争の恐ろしさを改めて学び、戦争について声を出して伝えていくことの大切さを学びました。

【昭和館・平和祈念資料館】

昭和館では、千人針がとても印象的でした。千人針は、赤紙を受け取った母親が、働き手として生活を支える大切な息子や夫の無事を祈り、女性が布にひと針ずつ糸で玉を結んで作ったお守りのことです。「無事に帰ってこられますように」という女性たちの願いや祈りが込められた千人針を持って戦場へ向かいました。私はこの千人針を見たとき、必ず生きて帰ってきてほしい、という女性たちの切実な思いを感じました。家族の別れは本当に悲しいものだと痛感しました。

また平和祈念資料館では、拘留者の手作りスプーンが印象に残っています。拘留者が、手に入る材料や道具を使って作ったスプーンは、生きていく上で欠かせない存在でした。また、このスプーンでいつの日か故郷に帰り、腹一杯食べられることを信じて希望をもちながら毎日生きていたそうです。これを見て私は、生きることに対する一生懸命さを感じました。辛い戦争の時代だったからこそ、負けずに生きていく姿勢に感動しました。

【最後に】

平和の旅では、戦争の愚かさと平和の尊さ、どんな状況でも生きることを諦めない強い心を学びました。二度と悲惨な戦争が起こらないよう、今回学んだことを自分の胸にしっかり刻み、言葉で伝え、行動していく決意をしました。